



伊勢物語新釋
六

特別
イ 4
3163
203(6)



賈
14
3/63
203(6)



Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of a specific dialect or a literary work. The text is contained within a rectangular border.

Handwritten text in a cursive script, similar to the one on the opposite page. It is also contained within a rectangular border.

一、この書は、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、
 五十一、
 五十二、
 五十三、
 五十四、
 五十五、
 五十六、
 五十七、
 五十八、
 五十九、
 六十、
 六十一、
 六十二、
 六十三、
 六十四、
 六十五、
 六十六、
 六十七、
 六十八、
 六十九、
 七十、
 七十一、
 七十二、
 七十三、
 七十四、
 七十五、
 七十六、
 七十七、
 七十八、
 七十九、
 八十、
 八十一、
 八十二、
 八十三、
 八十四、
 八十五、
 八十六、
 八十七、
 八十八、
 八十九、
 九十、
 九十一、
 九十二、
 九十三、
 九十四、
 九十五、
 九十六、
 九十七、
 九十八、
 九十九、
 百、

一、この書は、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、
 五十一、
 五十二、
 五十三、
 五十四、
 五十五、
 五十六、
 五十七、
 五十八、
 五十九、
 六十、
 六十一、
 六十二、
 六十三、
 六十四、
 六十五、
 六十六、
 六十七、
 六十八、
 六十九、
 七十、
 七十一、
 七十二、
 七十三、
 七十四、
 七十五、
 七十六、
 七十七、
 七十八、
 七十九、
 八十、
 八十一、
 八十二、
 八十三、
 八十四、
 八十五、
 八十六、
 八十七、
 八十八、
 八十九、
 九十、
 九十一、
 九十二、
 九十三、
 九十四、
 九十五、
 九十六、
 九十七、
 九十八、
 九十九、
 百、

○ 第一冊 十本 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊
Y 第二冊 十本 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊
第三冊 五
第四冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊
第五冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊
第六冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊
第七冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊
第八冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊
第九冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊
第十冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊

○ 第一冊 十本 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊
Y 第二冊 十本 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊
第三冊 五
第四冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊
第五冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊
第六冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊
第七冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊
第八冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊
第九冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊
第十冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊

〇此詞吉本
 〇此詞吉本
 〇此詞吉本
 〇此詞吉本
 〇此詞吉本
 〇此詞吉本
 〇此詞吉本
 〇此詞吉本
 〇此詞吉本
 〇此詞吉本

〇此詞吉本
 〇此詞吉本
 〇此詞吉本
 〇此詞吉本
 〇此詞吉本
 〇此詞吉本
 〇此詞吉本
 〇此詞吉本
 〇此詞吉本
 〇此詞吉本

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of a letter or document. The text is written in a fluid, connected style.

九十二段

全本七

Handwritten text in a cursive script, continuing the text from the previous page. The script is consistent and legible.

Handwritten text in a cursive script, continuing the text from the previous page. The script is consistent and legible.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of a letter or document. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in a cursive script, continuing the text from the previous page. The script is consistent and legible.

Handwritten text in a cursive script, continuing the text from the previous page. The script is consistent and legible.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style. It begins with a long horizontal line, followed by several lines of text. There are some larger characters or symbols interspersed within the lines. The text ends with a long horizontal line.

九十四段

Handwritten text in a cursive script, similar to the one on the opposite page. It is enclosed in a rectangular border. The text is written in a fluid, connected style. It begins with a long horizontal line, followed by several lines of text. There are some larger characters or symbols interspersed within the lines. The text ends with a long horizontal line.

十分の一の税率に引換りては、
 既に納められたる税額に對し、
 一、二、三、四、五、六、七、八、九、
 十、十一、十二、十三、十四、十五、
 十六、十七、十八、十九、二十、
 二十一、二十二、二十三、二十四、
 二十五、二十六、二十七、二十八、
 二十九、三十、三十一、三十二、
 三十三、三十四、三十五、三十六、
 三十七、三十八、三十九、四十、
 四十一、四十二、四十三、四十四、
 四十五、四十六、四十七、四十八、
 四十九、五十、五十一、五十二、
 五十三、五十四、五十五、五十六、
 五十七、五十八、五十九、六十、
 六十一、六十二、六十三、六十四、
 六十五、六十六、六十七、六十八、
 六十九、七十、七十一、七十二、
 七十三、七十四、七十五、七十六、
 七十七、七十八、七十九、八十、
 八十一、八十二、八十三、八十四、
 八十五、八十六、八十七、八十八、
 八十九、九十、九十一、九十二、
 九十三、九十四、九十五、九十六、
 九十七、九十八、九十九、百。

勢流新報

一、二、三、四、五、六、七、八、九、
 十、十一、十二、十三、十四、十五、
 十六、十七、十八、十九、二十、
 二十一、二十二、二十三、二十四、
 二十五、二十六、二十七、二十八、
 二十九、三十、三十一、三十二、
 三十三、三十四、三十五、三十六、
 三十七、三十八、三十九、四十、
 四十一、四十二、四十三、四十四、
 四十五、四十六、四十七、四十八、
 四十九、五十、五十一、五十二、
 五十三、五十四、五十五、五十六、
 五十七、五十八、五十九、六十、
 六十一、六十二、六十三、六十四、
 六十五、六十六、六十七、六十八、
 六十九、七十、七十一、七十二、
 七十三、七十四、七十五、七十六、
 七十七、七十八、七十九、八十、
 八十一、八十二、八十三、八十四、
 八十五、八十六、八十七、八十八、
 八十九、九十、九十一、九十二、
 九十三、九十四、九十五、九十六、
 九十七、九十八、九十九、百。

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

九十五段

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

今月の初らほり六月中旬迄とまき之瘡ハ腫物たむきの
すべこのまきちを俗にほむとならむたむきの腫物のまきちを
まきちとまきちを俗にほむとならむたむきの腫物のまきちを
まきちとまきちを俗にほむとならむたむきの腫物のまきちを

今月の初らほり六月中旬迄とまき之瘡ハ腫物たむきの
すべこのまきちを俗にほむとならむたむきの腫物のまきちを
まきちとまきちを俗にほむとならむたむきの腫物のまきちを
まきちとまきちを俗にほむとならむたむきの腫物のまきちを
まきちとまきちを俗にほむとならむたむきの腫物のまきちを
まきちとまきちを俗にほむとならむたむきの腫物のまきちを
まきちとまきちを俗にほむとならむたむきの腫物のまきちを
まきちとまきちを俗にほむとならむたむきの腫物のまきちを

今月の初らほり六月中旬迄とまき之瘡ハ腫物たむきの
すべこのまきちを俗にほむとならむたむきの腫物のまきちを
まきちとまきちを俗にほむとならむたむきの腫物のまきちを
まきちとまきちを俗にほむとならむたむきの腫物のまきちを
まきちとまきちを俗にほむとならむたむきの腫物のまきちを
まきちとまきちを俗にほむとならむたむきの腫物のまきちを
まきちとまきちを俗にほむとならむたむきの腫物のまきちを
まきちとまきちを俗にほむとならむたむきの腫物のまきちを

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation from the previous page.

○ *Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a specific section of text.*

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular border.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. The script is dense and characteristic of early modern European cursive.

Handwritten text in a cursive script, similar to the one on the opposite page. It is arranged in approximately 12 horizontal lines. The script is dense and characteristic of early modern European cursive.

ろくろく... 記

老の詞なり

九十六段

むし 堀ののほいまうらぎ... 後のあま... 堀ののほ...

大鏡ニ... 堀ののほ... 堀ののほ...

はらけ... 老ら...

そ... 老... 堀ののほ... 大政大臣... 梅のつら...

とて

なが月ざるもいつる古き夏より八月月で八雑を賞ぶるま
と実の梅はむあれづつ枝は用なすくなが月ぞよしのり
いつたねぞよーといさむしきめてやさしく梅の枝は雑をつ
きさすもつハ伊勢貞丈のいさめいさめハさよめさよめ
んぞぶきの脅何の故実よわりのびこー一時いされすーたさ
とあれハ梅は枝よもほくハはわすのすういさめいさめさ
わつしけー

おちのひもどくと折もふらさるーさわしむもさほりけ
わつたのいさよすまのいさよすまのいさよすまのいさよすまの

おちのひもどくと折もふらさるーさわしむもさほりけ
わつたのいさよすまのいさよすまのいさよすまのいさよすまの
おちのひもどくと折もふらさるーさわしむもさほりけ
わつたのいさよすまのいさよすまのいさよすまのいさよすまの
おちのひもどくと折もふらさるーさわしむもさほりけ
わつたのいさよすまのいさよすまのいさよすまのいさよすまの
おちのひもどくと折もふらさるーさわしむもさほりけ
わつたのいさよすまのいさよすまのいさよすまのいさよすまの
おちのひもどくと折もふらさるーさわしむもさほりけ
わつたのいさよすまのいさよすまのいさよすまのいさよすまの

九十八段
ひり

つねにひりかき...
此右近の...
今いま...
一條より大まけ方を...
方ハ左近の...
五日右近...
拾及おの右近の馬場二條
その後...
それより五乃

な...
古...
六日の競馬騎射ハ大内の...
大内の...
つれの...
あう...
競る騎射ハ帝の

○勢資新撰六

○十九

これに右近ける留す五月廿五日驛射あり事比ぶらして五日
いたをけする留すはくききききききききききききききききき
のいせいせいせいせいせいせいせいせいせいせいせいせいせいせい
まのまええええええええええええええええええええええええ
九記曰是日左府荒手結恒例三日行て而依大内御腦殿上佐籠
御物忌因彼日不行まをあらわれ三日八右近の荒手結して
四日八右近の荒手結なをあらわれ三日八右近の荒手結して
色バま子様もあまきききききききききききききききききき
江家次身三は卷左右衛門府手結事を
いふ射礼之前行て荒手結正佐或九
心月つすそ時八右近の荒手結真手結よりあまききききききき
結ハまよひまよひ今昔物神申抄を従とれべらて又い

をらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
たー引まをた柵を引柵を引柵を引柵を引柵を引柵を引柵を引柵
りて大内のつる留すのつる留すのつる留すのつる留すのつる留す
まをたれけつていふせん標ハまをたれけつていふせん標ハまを
まええええ
されも神中あままままま日ハ射手の近衛舍人禊の尻を
あまをらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
るいせいせいせいせいせいせいせいせいせいせいせいせいせいせい
舍人著禊より西宮記十七れ卷賀茂桑野警固の条より近衛舍人
著禊半臂等候陳とんええええええええええええええええええ
わらるなれは禊を著すねまー又高当一やまをたれけつていふ
しをたれけつていふせん標ハまをたれけつていふせん標ハまを

車はトモケの事にて女の事也其の事ハ同記十七卷にて
平の事ハトモケの事也其の事ハ同記十七卷にて
其の事ハトモケの事也其の事ハ同記十七卷にて
其の事ハトモケの事也其の事ハ同記十七卷にて
其の事ハトモケの事也其の事ハ同記十七卷にて
其の事ハトモケの事也其の事ハ同記十七卷にて
其の事ハトモケの事也其の事ハ同記十七卷にて
其の事ハトモケの事也其の事ハ同記十七卷にて
其の事ハトモケの事也其の事ハ同記十七卷にて
其の事ハトモケの事也其の事ハ同記十七卷にて

奈良よりあつたものなるはうららきとちかきものなり
又車は下

藤のり西宮記十一の卷に古時三位已上懸之近代納言已上同之

同記十七卷にて
婦人之車饒也トモケ臆断古意ハ和名抄ハ愧慊_{俗ト}車簾トモケ
其の事ハトモケの事也其の事ハ同記十七卷にて
其の事ハトモケの事也其の事ハ同記十七卷にて
其の事ハトモケの事也其の事ハ同記十七卷にて
其の事ハトモケの事也其の事ハ同記十七卷にて
其の事ハトモケの事也其の事ハ同記十七卷にて
其の事ハトモケの事也其の事ハ同記十七卷にて
其の事ハトモケの事也其の事ハ同記十七卷にて
其の事ハトモケの事也其の事ハ同記十七卷にて
其の事ハトモケの事也其の事ハ同記十七卷にて

あやちくをうきあひめいもとけのにびんくしあきまをたけいんせき
えいしんげいのちか集ま後よりいんせきまの格さよりいんせき
あやちくをうき

うー

きりぬけりしあきまをうきいんせきまの格さよりいんせき
えいしんげいのちか集ま後よりいんせきまの格さよりいんせき
あやちくをうきいんせきまの格さよりいんせき
者よりいんせきまの格さよりいんせき

のらひいんせきまの格さよりいんせき

九十九段 男後涼殿のていんせきをうきいんせき

これの後涼殿と清涼殿とのちか集ま後よりいんせきまの格さよりいんせき
後涼殿 在清涼殿西 とええええ

あやちくをうきいんせきまの格さよりいんせき
えいしんげいのちか集ま後よりいんせきまの格さよりいんせき

あやちくをうきいんせきまの格さよりいんせき
えいしんげいのちか集ま後よりいんせきまの格さよりいんせき
あやちくをうきいんせきまの格さよりいんせき
えいしんげいのちか集ま後よりいんせきまの格さよりいんせき
あやちくをうきいんせきまの格さよりいんせき
えいしんげいのちか集ま後よりいんせきまの格さよりいんせき
あやちくをうきいんせきまの格さよりいんせき
えいしんげいのちか集ま後よりいんせきまの格さよりいんせき

人の家にはあるものにしてしるべきなり

じいりのほり今のきよしうけの祭なごりも里のゆいよはくはと
んじうけはくもごりうけのりよて新平のゆいよのゆいよ
ほりうけてありもごりうけのりよて新平のゆいよのゆいよ
てのりよてありもごりうけのりよて新平のゆいよのゆいよ
しるべきなりうけのりよて新平のゆいよのゆいよ
あは造紙千四人掌造雜紙造筆千十人掌造普通造墨千四
人掌造墨をほりしるべきなりあは造紙千四人掌造雜紙造筆千十
人掌造墨を造りしるべきなりあは造紙千四人掌造雜紙造筆千十
人掌造墨を造りしるべきなりあは造紙千四人掌造雜紙造筆千十
人掌造墨を造りしるべきなりあは造紙千四人掌造雜紙造筆千十

を造りしるべきなりあは造紙千四人掌造雜紙造筆千十人掌造墨を
造りしるべきなりあは造紙千四人掌造雜紙造筆千十人掌造墨を
造りしるべきなりあは造紙千四人掌造雜紙造筆千十人掌造墨を
造りしるべきなりあは造紙千四人掌造雜紙造筆千十人掌造墨を
造りしるべきなりあは造紙千四人掌造雜紙造筆千十人掌造墨を
造りしるべきなりあは造紙千四人掌造雜紙造筆千十人掌造墨を
造りしるべきなりあは造紙千四人掌造雜紙造筆千十人掌造墨を
造りしるべきなりあは造紙千四人掌造雜紙造筆千十人掌造墨を
造りしるべきなりあは造紙千四人掌造雜紙造筆千十人掌造墨を
造りしるべきなりあは造紙千四人掌造雜紙造筆千十人掌造墨を

○りり人まふよきなり
くくはんをまふなり

○ちの何て何のりりりり補きしるべきなりあは造紙千四人掌造雜紙造筆千十人掌造墨を
造りしるべきなりあは造紙千四人掌造雜紙造筆千十人掌造墨を
造りしるべきなりあは造紙千四人掌造雜紙造筆千十人掌造墨を
造りしるべきなりあは造紙千四人掌造雜紙造筆千十人掌造墨を
造りしるべきなりあは造紙千四人掌造雜紙造筆千十人掌造墨を
造りしるべきなりあは造紙千四人掌造雜紙造筆千十人掌造墨を
造りしるべきなりあは造紙千四人掌造雜紙造筆千十人掌造墨を
造りしるべきなりあは造紙千四人掌造雜紙造筆千十人掌造墨を
造りしるべきなりあは造紙千四人掌造雜紙造筆千十人掌造墨を
造りしるべきなりあは造紙千四人掌造雜紙造筆千十人掌造墨を

はるかに男の心もさうなれば一歩平治の事もさうなれば
ふたつとちかき心もさうなれば一歩平治の事もさうなれば
○さうなれば さうなれば さうなれば さうなれば
さうなれば さうなれば さうなれば さうなれば
さうなれば さうなれば さうなれば さうなれば

さうなれば さうなれば さうなれば さうなれば
さうなれば さうなれば さうなれば さうなれば
さうなれば さうなれば さうなれば さうなれば
さうなれば さうなれば さうなれば さうなれば
さうなれば さうなれば さうなれば さうなれば

さうなれば さうなれば さうなれば さうなれば
さうなれば さうなれば さうなれば さうなれば
さうなれば さうなれば さうなれば さうなれば
さうなれば さうなれば さうなれば さうなれば
さうなれば さうなれば さうなれば さうなれば

○まぢんいぢけ。許さのや。たう。と。神ちよほ。本にわらう。れ

てきふはぬ人の。一。わぶ。も。ん。ゆ。全本まが。よ。な。び。よ。ま。し。ん。り。

ひ。一。は。草のみ。う。ご。よ。け。う。ま。つ。り。た。る。男。は。う。ら。な。ら。む。ま。ら。ん。ま。ら。ん。

やう。ま。て。あ。ぶ。ね。る。ち。ろ。う。な。ら。む。け。り。

深草けみうご。ハ。仁明天皇を。中。以。此。帝。萌。ま。して。深草山。よ。葬。ま。る。

ま。一。故。く。ま。め。よ。実。掃。ま。て。ハ。同。一。て。を。を。詞。と。字。音。の。語。と。み。め。ん。ひ。

て。ハ。申。昔。の。い。ら。ぬ。お。も。い。じ。ぐ。う。ん。な。ら。む。其。一。く。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。

ける。ち。き。や。め。く。ま。ら。ん。〇。い。ら。ぬ。あ。は。れ。な。ら。む。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。

ま。ら。ん。ぞ。あ。う。け。る。た。わ。お。け。り。よ。よ。お。き。り。た。ら。む。れ。き。ん。せ。せ。けん。せ。

あ。れ。な。ら。む。る。り。い。い。く。て。と。ら。り。

○む。一。は。ま。の。み。か。に。つ。う。ま。け。う。ら。む。知本よ。か。ん。ち。ま。ら。ん。ま。ら。ん。

ま。ら。ん。の。男。の。い。ら。ぬ。お。も。い。じ。ぐ。う。ん。な。ら。む。其。一。く。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。

お。も。い。じ。ぐ。う。ん。な。ら。む。其。一。く。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。は。を。け。ん。ん。

は。ら。ん。の。男。の。い。ら。ぬ。お。も。い。じ。ぐ。う。ん。な。ら。む。其。一。く。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。

ま。ら。ん。の。女。の。い。ら。ぬ。お。も。い。じ。ぐ。う。ん。な。ら。む。其。一。く。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。

る。く。ら。の。お。も。い。じ。ぐ。う。ん。な。ら。む。其。一。く。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。は。ら。ん。の。男。の。い。

よ。ま。つ。ら。の。お。も。い。じ。ぐ。う。ん。な。ら。む。其。一。く。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。は。ら。ん。の。女。

し。ら。ん。の。お。も。い。じ。ぐ。う。ん。な。ら。む。其。一。く。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。は。ら。ん。の。男。

○は。ら。ん。知本よ。よ。う。て。と。ら。り。

とけつらうづつらけ又社ひづるまののほさむらひのしほり
集七のまゝは廣瀬川袖衝許浅手也心深目手吾念有良武もあ
るまゝはけつらうづつらけ又社ひづるまののほさむらひのしほり
とけつらうづつらけ又社ひづるまののほさむらひのしほり
くまゝはけつらうづつらけ又社ひづるまののほさむらひのしほり

おのろねがあらぬ女なれどいづれもよむなをこころいれてもあつち
たてきりくくくくく友よいんせをのすまゝもあつち
○おのろねがあらぬ女なれどいづれもよむなをこころいれてもあつち
おのろねがあらぬ女なれどいづれもよむなをこころいれてもあつち

おのろねがあらぬ女なれどいづれもよむなをこころいれてもあつち

おのろねがあらぬ女なれどいづれもよむなをこころいれてもあつち

○おのろねがあらぬ女なれどいづれもよむなをこころいれてもあつち

おのろねがあらぬ女なれどいづれもよむなをこころいれてもあつち
おのろねがあらぬ女なれどいづれもよむなをこころいれてもあつち
おのろねがあらぬ女なれどいづれもよむなをこころいれてもあつち

おのろねがあらぬ女なれどいづれもよむなをこころいれてもあつち
おのろねがあらぬ女なれどいづれもよむなをこころいれてもあつち
おのろねがあらぬ女なれどいづれもよむなをこころいれてもあつち
おのろねがあらぬ女なれどいづれもよむなをこころいれてもあつち
おのろねがあらぬ女なれどいづれもよむなをこころいれてもあつち
おのろねがあらぬ女なれどいづれもよむなをこころいれてもあつち
おのろねがあらぬ女なれどいづれもよむなをこころいれてもあつち
おのろねがあらぬ女なれどいづれもよむなをこころいれてもあつち
おのろねがあらぬ女なれどいづれもよむなをこころいれてもあつち
おのろねがあらぬ女なれどいづれもよむなをこころいれてもあつち

〇 勢 夜 初 秋 六
 〇 三 十 七
 〇 勢 夜 初 秋 六
 〇 三 十 七

〇 勢 夜 初 秋 六
 〇 三 十 七
 〇 勢 夜 初 秋 六
 〇 三 十 七

断
 百八段
 一男
 柳宗元が詩は懐入涙空垂る
 一男友
 一男友

百九段
 一男
 一男友
 一男友

Handwritten text in a cursive script, likely a musical score or a form of shorthand. The text is arranged in several lines within a rectangular border. A small vertical label '百十段' is visible on the left side of the page.

Handwritten text in a cursive script, similar to the one on the opposite page. It is contained within a rectangular border. A small vertical label '百十一段' is visible on the left side of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of a letter or document.

80

Handwritten text in a cursive script, continuing the text from the previous page.

百十二段

Handwritten text in a cursive script, starting with the section marker '百十二段'.

百十三段

ひし 男やいもてりて

○ヤシメ 古本の鰥と云ふ古きの本にひしをいふ
まのひしと云ふてひしと云ふ男あまがや
りていふ本にありまのひしと云ふ本にありま
のひしと云ふその和名抄に無妻曰鰥夜無
無妻曰寡夜無と
はのひしと云ふていふその和名抄にありまのひしと云ふ
和名抄にありまのひしと云ふていふその和名抄にありまのひしと云ふ
ひしと云ふその和名抄にありまのひしと云ふ
はんおはれと云ふその和名抄にありまのひしと云ふ
本はちと云ふそ此の和名抄にありまのひしと云ふ
このひしと云ふその和名抄にありまのひしと云ふ
このひしと云ふその和名抄にありまのひしと云ふ

ていしと云ふ又小尔推云凡無妻無夫通謂之寡也
なまのひしと云ふその和名抄にありまのひしと云ふ
なまのひしと云ふその和名抄にありまのひしと云ふ

百十四段

ひし 仁和のころと云ふはのひしと云ふ
ひしと云ふその和名抄にありまのひしと云ふ
ひしと云ふその和名抄にありまのひしと云ふ

仁和のころと云ふはのひしと云ふ
ありける三代実録第四十九卷に仁和二年十二月十四日戌午行幸
井田野と云ふその和名抄にありまのひしと云ふ
ありけるその和名抄にありまのひしと云ふ

一 かのびるしつふんすけらけよけとくはばぢちやうしきるのうしよはびさ
 よけももなれげつごさく拾栲拉断なごももよりつれいご捨張
 てまごふりけのたごう大鷹オホタヤかたごカヒの大鷹鳥飼コウカロヒ飼者とてあ
 るまけ大鷹の鷹鳥飼の西宮記十一の卷王卿衣服の條は鷹鳥飼王
 卿大鷹鳥鷹鳥飼者着地摺襦衣袴玉帯鷓二飼者ニ飼者とあり此事
 作あまいてけいし
 ○まごよ大方えとあるははなごちりふてえぬるもあをそそれ
 べて凡の鷹飼へ古きよいさぬいさくう一たきいさなり
 すりごにぬかたもよまごれしとほらうてぬつけ
 まらうしきるの西宮記は鷹鳥飼者着地摺襦衣とあるはれあり

此行幸の時ハ王卿皆着摺衣と同記十七は冬野行幸の條は元中
 色ハ大鷹飼の人とあり
 ○まごのしきとけらうて 全本はまごのきとごのまご加茂祭の
 放しけのまごのどころひさぬきにけしむぢくはらうしきる
 けしむ祭まごのしきとけらうてハはらうのまご集を此さうの飼
 まごハはらうのしきとけらうてハはらうのまご集を此さうの飼
 まごハはらうのしきとけらうてハはらうのまご集を此さうの飼
 まごハはらうのしきとけらうてハはらうのまご集を此さうの飼
 まごハはらうのしきとけらうてハはらうのまご集を此さうの飼
 まごハはらうのしきとけらうてハはらうのまご集を此さうの飼
 まごハはらうのしきとけらうてハはらうのまご集を此さうの飼
 まごハはらうのしきとけらうてハはらうのまご集を此さうの飼

○勢積初巻六

ちくしんをさうけし

ねまのあてをかくしうまうねにまこしほののちりま
織を身よすきてせくはくしたしんじのねのちりま
身よしんくしんじのねにまこしほののちりま
まの別かうくしんじのねにまこしほののちりま
ちりまのねにまこしほののちりま
四のちりまにまこしほののちりま
てねのちりまにまこしほののちりま
みさう

ちくしんをさうけし

○此詞わりなよちりま

百十六段

ひし男すしんまのちりまにまこしほののちりま

すしんまのちりまにまこしほののちりま
ちりまのちりまにまこしほののちりま
えんじ

○ちりま

ちりまのちりまにまこしほののちりま
ちりまのちりまにまこしほののちりま
ちりまのちりまにまこしほののちりま

たしむるに於ては、其の事、*the same* といふ事、*the same* といふ事、
久しき事、*the same* といふ事、*the same* といふ事、*the same* といふ事、
ゆゑに、*the same* といふ事、*the same* といふ事、*the same* といふ事、
きこへば、*the same* といふ事、*the same* といふ事、
○*the same* といふ事、*the same* といふ事、*the same* といふ事、
を、*the same* といふ事、*the same* といふ事、*the same* といふ事、
信、*the same* といふ事、*the same* といふ事、*the same* といふ事、
わ、*the same* といふ事、*the same* といふ事、*the same* といふ事、
い、*the same* といふ事、*the same* といふ事、*the same* といふ事、
い、*the same* といふ事、*the same* といふ事、*the same* といふ事、

古きより、*the same* といふ事、*the same* といふ事、*the same* といふ事、
大、*the same* といふ事、*the same* といふ事、*the same* といふ事、
お、*the same* といふ事、*the same* といふ事、*the same* といふ事、
を、*the same* といふ事、*the same* といふ事、*the same* といふ事、
○*the same* といふ事、*the same* といふ事、*the same* といふ事、
む、*the same* といふ事、*the same* といふ事、*the same* といふ事、
師、*the same* といふ事、*the same* といふ事、*the same* といふ事、
の、*the same* といふ事、*the same* といふ事、*the same* といふ事、
な、*the same* といふ事、*the same* といふ事、*the same* といふ事、
う、*the same* といふ事、*the same* といふ事、*the same* といふ事、

何れにてもうけよと云ふ事此條に記さるる事
 ありて是れより金本を以て取れがごとく
 承てお之くならぬ位者れき一のいおねの代給わらん
 位よ一の岸おにいおねおまうてお之く一ねうそのまをほげ
 へるまうし今でいづく代へなるんをいふ事
 おほんおねおまうていづく代へ
 げさうの現形のおまうていづく代へ
 へるまうし今でいづく代へなるんをいふ事
 おほんおねおまうていづく代へ

今のおまうていづく代へなるんをいふ事
 おほんおねおまうていづく代へなるんをいふ事
 おほんおねおまうていづく代へなるんをいふ事
 おほんおねおまうていづく代へなるんをいふ事
 おほんおねおまうていづく代へなるんをいふ事
 おほんおねおまうていづく代へなるんをいふ事
 おほんおねおまうていづく代へなるんをいふ事
 おほんおねおまうていづく代へなるんをいふ事
 おほんおねおまうていづく代へなるんをいふ事
 おほんおねおまうていづく代へなるんをいふ事
 おほんおねおまうていづく代へなるんをいふ事

かゝる事なきは、此の世に於ては、
たゞの事ならず、

○此の世に於ては、
たゞの事ならず、

玉の如き事なきは、此の世に於ては、
たゞの事ならず、

玉の如き事なきは、此の世に於ては、
たゞの事ならず、

玉の如き事なきは、此の世に於ては、
たゞの事ならず、

玉の如き事なきは、此の世に於ては、
たゞの事ならず、

○此の世に於ては、
たゞの事ならず、

玉の如き事なきは、此の世に於ては、
たゞの事ならず、

玉の如き事なきは、此の世に於ては、
たゞの事ならず、

玉の如き事なきは、此の世に於ては、
たゞの事ならず、

○此の世に於ては、
たゞの事ならず、

玉の如き事なきは、此の世に於ては、
たゞの事ならず、

玉の如き事なきは、此の世に於ては、
たゞの事ならず、

玉の如き事なきは、此の世に於ては、
たゞの事ならず、

玉の如き事なきは、此の世に於ては、
たゞの事ならず、

玉の如き事なきは、此の世に於ては、
たゞの事ならず、

玉の如き事なきは、此の世に於ては、
たゞの事ならず、

玉の如き事なきは、此の世に於ては、
たゞの事ならず、

玉の如き事なきは、此の世に於ては、
たゞの事ならず、

おとよきてのうらなひ

男中の中をせよしむるにあらはれぬ女中かきこへて
世にいふにやういふにやういふにやういふにやういふに
なまよちをほつておのれをいふにやういふにやういふに
あつていふにやういふにやういふにやういふにやういふに
ほつてあつていふにやういふにやういふにやういふに
あつていふにやういふにやういふにやういふにやういふに

ちよとちよとほつてあつていふにやういふにやういふに
ほつてあつていふにやういふにやういふにやういふに

おとよきてのうらなひ
見ればいふにやういふにやういふにやういふにやういふに
おとよきてのうらなひ
あつていふにやういふにやういふにやういふにやういふに

百二十一段

ひい男梅つがようあつていふにやういふにやういふに
あつていふにやういふにやういふにやういふにやういふに
梅つがようあつていふにやういふにやういふにやういふに

あつていふにやういふにやういふにやういふにやういふに
あつていふにやういふにやういふにやういふにやういふに

ヨリハクシテモトメテハ権ハカニシテモトメテハ
ヨリハクシテモトメテハ権ハカニシテモトメテハ
ヨリハクシテモトメテハ権ハカニシテモトメテハ
ヨリハクシテモトメテハ権ハカニシテモトメテハ
ヨリハクシテモトメテハ権ハカニシテモトメテハ

ヨリハクシテモトメテハ権ハカニシテモトメテハ
ヨリハクシテモトメテハ権ハカニシテモトメテハ
ヨリハクシテモトメテハ権ハカニシテモトメテハ
ヨリハクシテモトメテハ権ハカニシテモトメテハ
ヨリハクシテモトメテハ権ハカニシテモトメテハ
ヨリハクシテモトメテハ権ハカニシテモトメテハ

ヨリハクシテモトメテハ権ハカニシテモトメテハ
ヨリハクシテモトメテハ権ハカニシテモトメテハ
ヨリハクシテモトメテハ権ハカニシテモトメテハ
ヨリハクシテモトメテハ権ハカニシテモトメテハ
ヨリハクシテモトメテハ権ハカニシテモトメテハ

百二十二段

ヨリハクシテモトメテハ権ハカニシテモトメテハ
ヨリハクシテモトメテハ権ハカニシテモトメテハ
ヨリハクシテモトメテハ権ハカニシテモトメテハ
ヨリハクシテモトメテハ権ハカニシテモトメテハ
ヨリハクシテモトメテハ権ハカニシテモトメテハ
ヨリハクシテモトメテハ権ハカニシテモトメテハ

けりてはてはたのめたるをばりてしるはては
 しんけりてはたのめたるをばりてしるはては
 しんけりてはたのめたるをばりてしるはては
 しんけりてはたのめたるをばりてしるはては
 しんけりてはたのめたるをばりてしるはては
 しんけりてはたのめたるをばりてしるはては
 しんけりてはたのめたるをばりてしるはては
 しんけりてはたのめたるをばりてしるはては
 しんけりてはたのめたるをばりてしるはては
 しんけりてはたのめたるをばりてしるはては
 しんけりてはたのめたるをばりてしるはては
 しんけりてはたのめたるをばりてしるはては
 しんけりてはたのめたるをばりてしるはては

かきりてはたのめたるをばりてしるはては

けりてはてはたのめたるをばりてしるはては
 しんけりてはたのめたるをばりてしるはては
 しんけりてはたのめたるをばりてしるはては
 しんけりてはたのめたるをばりてしるはては
 しんけりてはたのめたるをばりてしるはては
 しんけりてはたのめたるをばりてしるはては
 しんけりてはたのめたるをばりてしるはては
 しんけりてはたのめたるをばりてしるはては
 しんけりてはたのめたるをばりてしるはては
 しんけりてはたのめたるをばりてしるはては
 しんけりてはたのめたるをばりてしるはては
 しんけりてはたのめたるをばりてしるはては

百二十四段

がねも又とつて位となる人なるものなりむまはたさゆへに
くまのむまをばつてはりし生んらふものきをけむらじだんしてつらふ
んよらうとてあまべしちまふしあつらうらふもてしんじむれ事
なれどその相よりかつかもさつてひささうかむるむまひん
腔制も左傳をひきおて鄙子産謂子皮曰人心不同譬言如面焉
吾敢謂子面如吾面乎とらふも此分の下つりとしらふれら
るいたづらう捨極古きふとれららられさしあつらふ
てなづふのふふさふふふ黙然のふふふさふふふふふふふふ
むら百二十五段男わづらひてちちちちちちちちちちちちちち
はひはゆく道とひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ

ふはたさゆへにくまのむまをばつてはりし生んらふものきをけむらじだんしてつらふ
んよらうとてあまべしちまふしあつらうらふもてしんじむれ事なれどその相よりかつかもさつてひささうかむるむまひん
腔制も左傳をひきおて鄙子産謂子皮曰人心不同譬言如面焉吾敢謂子面如吾面乎とらふも此分の下つりとしらふれらる
いたづらう捨極古きふとれららられさしあつらふてなづふのふふさふふ黙然のふふふさふふふふふふふふ
むら男わづらひてちちちちちちちちちちちちちちひはひはゆく道とひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ

伊勢物語新釋與書

常世之浪重浪歸袖風之伊勢海爾志
豆久白珠比利比取牟等須留人波古
昔与利安麻多阿里都禮杼毛皆得難
爾志多流乎近世仁至氏渚二阿類袁
伊佐々可比利比取志波安之我知流
難波能契冲阿闍梨榛仁保布引馬野



能賀茂翁此二人奈利伎然有乎遠津
人吾松屋大人波石上布留伎与利三
粟乃中今爾至麻泥廻書止云書乎見
之安吉良米賜比橋小門之阿波岐原
乃腹爾深阿地波比氏上瀨者瀨速下
瀨者瀨弱登之氏中瀨仁隨立襖袂氏
禍津日能麻我禮里志止伎其等袁大

直毗爾見奈保之止伎奈保之賜比氏
中瀨之中昔廻書乃心波伊豆能賣乃
清良家久明良家久奈利行麻々尔々
彼翁多知乃比利比得良礼射里之志
良珠乎毛得賜波乎登之氏浪加伎别
氏千尋乃底与利比加利加我也久素
潛出賜比志波最母々々恐伎和射奈

里計利留火之赤石海尔男狹磯我得
之毛是二麻佐流倍之也波加々留底
寶乃真珠乎和禮良我手筭乃内尔能
微加久志置年波安多良之伎事止思
比氏綱手繩引人仁迦多良比氏虛蟬
之世能人々乃目加我也加須事止那
毋奈志奴流乎渡津海延神毛相宇豆

奈比賜比氏婆此珠乃光日二異二曾
波里行倍志如此麻袁湏波海邊乃洲
崎能佐志出多流和射奈礼杼乎之鳥
乃教延子能數尔之伊里乎禮婆荒磯
能伊蘇之久勤米賜敵類事袁滿潮能
稱辞竟奉留尔那女

讚岐國高松之里人源春野

文政元年戊寅九月彫成

奴豆能舎蔵板

製本所

京都

吉田四郎右衛門

植村藤右衛門

小川武右衛門

城戸市右衛門

和泉屋庄次郎

江戸

河内屋儀助

大坂

